

巻頭によせて

校長 北 村 聡

Kitamura Satoshi



世の中は、めまぐるしく変容する時代になりました。これからは、好むと好まざるとにかかわらず、どんな職業に就くにせよ、多かれ少なかれ文化の異なる諸外国の人々と語り合い、協調することがますます必要になってゆきます。

たとえば

「イギリスには『私は、2たす2は4だと思いますが、あなたは どう思いますか?』というジョークがあるそうです。」(注)

つまり、きちんとした自分の意見があり、相手の意見(反論)も尊重する。相手の自由を認めている。相手のことを過剰に気にしないという姿勢を重視しています。議論は議論で白熱しても、後に人間関係のしこりを残さない習慣が定着しているように思えます。

日本人はどちらかというといわずらに人間関係が損なわれることを回避するために、「奥ゆかしさ」を尊重し、「場の空気を読む」ことが得意で「言挙げする」「議を言う」ことを慎もうとし、「言わずもがな」「以心伝心」「察する」ことを重んじます。それはそれで大切なことで、相手の気持ちを尊重し、よい雰囲気の中で事を進めようとする「美德」です。

どちらの習慣も、相手の立場を尊重するという点では同じことで、善悪、上下、前後の関係ではなく、互いに悪意のないところで人間社会をよりよく発展させようとの工夫から生まれたものです。要はお互いに違った文化の中で育ったことを認識して接することが大切です。それは何も重要な会議の場ばかりのことではなく、ちょっとした接客の場面などでも生かされるべきことです。

これからの時代を生き抜く皆さんは尚更「自分だけの価値観」に固執するのではなく、人間世界には多様で複雑な価値観があり、それぞれがそれぞれの価値観で生活しているのだということをよく考えて他人と接することが今まで以上に重要になります。

自分を愛するように人を愛する。自国を愛するように他国を愛する。外国語を学び、異国の文化への理解を深める努力を怠らないことが、職業選択の範囲を飛躍的に拡大させることになります。

(注) ひろさちや 著 「捨てちゃえ、捨てちゃえ」2010年 株式会社PH P